

## 平成24年度 まちなか工房プロジェクト

### 『まちなかへの来街者の回遊行動の分析とその回遊促進策』

溝上 章志

#### 【研究の背景と目的】

現在、九州新幹線鹿児島ルート全線開業や、政令指定都市への移行など、大きな節目を迎えている熊本市は、平成23年度までの5カ年を計画期間とした熊本市中心市街地活性化基本計画の第一期を終え、平成24年には第二期案を策定して、これまで以上に、伝統・文化や既存の都市機能を最大限に活かして中心市街地の新たな魅力と活力を創造していこうとしている。

しかし、近年、熊本市でも、居住者や商業活動の郊外化による中心商業街の衰退が指摘されており、実際に中心商店街の歩行者通行量や小売販売額の減少、低・未利用地の増加など、都市活力の低下が問題となっている。これらの問題を解決して中心市街地を活性化させる施策の一つとして、来街者のまちなかでの回遊を促進させることが有効である。そのためには、歩行者の回遊行動の実態を把握し、回遊行動に影響を及ぼす要因を明らかにすることが必要である。また、魅力ある中心市街地形成のための街路網構成や歩行者空間の整備、景観デザインなどが求められている。本研究では、

- 1) 中心市街地における回遊行動調査やゲートカウント調査のデータを用いて、来街者の歩行回遊行動の特性を分析し、来街者がどのような目的で中心市街地を訪れたか、どのような店舗を訪問したか、店舗間をどのようなルートで移動したか、各店舗にどのくらいの時間滞在し、消費したかたかなどの行動を表現できるモデルを構築すること、
- 2) 今後展開が予想される商業施設の適切な空間配置、街路網の再構成、歩行者空間整備などに対するシミュレーションを行い、回遊行動を活発化させるための有効な施策を提案することを目的とする。

### 『オールドニュータウン問題の把握と解決策に関する総合的調査・分析』

星野 裕司

#### 【研究の背景と目的】

現在、全国において、高度経済成長期以降に開発された郊外住宅地(ニュータウン)が、少子高齢化や地域施設(インフラ)の老朽化などの問題を抱えていることは、持続的な地域づくりの大きな課題になっている。これはオールドニュータウン問題といわれており、当然ながら熊本市においても同様の問題が潜在している。この問題解決には、社会基盤、交通、ユニバーサルデザイン、コミュニティ、まちなか居住、景観など、総合的な視点が必要である。

そこで、工学部社会環境系の教員(岡田、溝上、柿本、田中、円山、星野)がチームを組み、このオールドニュータウン問題に総合的な視点から調査・分析を行い、解決策を模索していく。

具体的な研究テーマを下記に挙げる。

- 1) 地域経営・まちづくりのダイナミクスとしてみたオールドニュータウン問題の適応的マネジメント- 実践から見る戦略的可能性と課題
- 2) 住宅団地への入居当時は自動車を利用可能であったが、現在自動車の運転が困難となっている高齢者層の生活実態とその課題解決を探る
- 3) オールドニュータウンの社会基盤整備水準とその維持費用に関する調査研究
- 4) 戦後、計画・建設されたニュータウンの敷地、施設、都市機能、居住者特性などの項目を、文献・資料により調査しデータベース化する
- 5) コミュニティの核となる公共スペース(街区公園など)の建設経緯・利用実態を調査し、今後の利活用への展開を検討する

## 『中心商店街低炭素化のためのエネルギー需要調査』

田中 昭雄

### 【研究の背景と目的】

地球温暖化危機が叫ばれるなか、我が国は温室効果ガス排出量を2020年までに1990年比で25%削減を国際的公約しており、多くの自治体が温室効果ガス削減に積極的に取り組んでいる。

また2011年3月11日に発生した東日本大震災により全国の原子力発電所が稼働停止したことで、夏期・冬期の電力ピークカットの要求が政府や電力会社各社から出された。さらに今後も原子力発電所の稼働が期待できない事などから、国民に節電や電力負荷平準化に対する関心が高まっている。

熊本市中心商店街においては、2011年以前から街の低炭素化、電力ピークカットなどによる社会貢献に積極的であり、低炭素化運動を中心街の活性化に繋がりたいという希望も強い。特に低炭素化によるカーボンクレジット資金の活用を街の活性化に繋がりたいという声大きい。

そこで本研究では、熊本市中心街のエネルギー消費の実態、電力ロードカーブの実態を把握し、低炭素化、電力ピークの平準化を推進するため、フィールド調査を実施するものである。

2011年度は中心街のエネルギー消費の実態、電力ロードカーブの実態を把握するため、2つの実態調査を行い、温室効果ガスと電力負荷の発生状況を地理情報としてまとめた。しかし調査日数が不十分であり、気象の時刻変動に対応したデマンドレスポンスを予測するまでにはいたっていない。そこで、本年度は、両調査について追加調査を行い、推定精度を高めるとともに、これらの調査結果を総合して、熊本市中心商店街のCO<sub>2</sub>発生量、電力需要の季節別時刻別発生状況と季節特性をデータベースにまとめ、地理情報システムとして閲覧可能とする。

またエネルギー需要を決定する要素として、外気温感応度、事業所用途のエネルギー負荷発生 of 周期的要素(時刻、曜日)等を考慮して、時刻別、季節別CO<sub>2</sub>発生状況および電力負荷発生状況の空間分布予測システムの開発に繋がる基礎研究を行う。

## 『熊本市中心市街地の公共空間整備を事例とする研究・教育』

位寄 和久

### 【研究の背景と目的】

熊本市の中心市街地は、多くの地方都市と同様、夜間人口や企業の郊外流出、それ等に伴う空地の増加、さらには郊外ショッピングセンターの増加に伴う中心商店街来訪者や売り上げの伸び悩みなど、空洞化の問題に直面している。熊本市では都市の顔ともいべき中心市街地活性化を重点施策の一つと捉えており、中心市街地の商店街等の団体もイベントの共同開催など様々な取り組みを模索している。

申請者の研究室でもこうした課題に応えるべく、中心市街地の物的環境の変化動向や、そこにおける市民の生活行動に関する卒業研究や修士研究のテーマに設定し、熊本市都市整備局、熊本商工会議所、地元商店街等と連携して調査研究に取り組んできた。またその結果はまちなか工房に展示すると共に、まちなか工房主催のまちづくり学習会でも報告してきた。本年も、これまでの蓄積を踏まえると共に、上述のまちづくり組織と連携して、歩いて楽しい都市空間の創出を目標とする市街地整備計画について研究し提案する。